

第1回 徳島市 まち・ひと・しごと創生懇話会 会議録

日時：令和元年10月3日（木）13時から

場所：徳島市役所8階 庁議室

出席者 委員8人、市長（会長）、事務局

1 開会

2 委員紹介

3 会長挨拶

4 議事

（事務局）

議事(1)～(4)について説明

- (1) 地方創生の最近の動向について
- (2) 徳島市の人口動態について
- (3) 第1期徳島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
- (4) 第2期徳島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性について

（会長）

順に意見を伺っていきたいと思います。

（委員）

私は30年間、NPO法人でボランティアのメンバーと一緒に川の清掃活動を基礎としてまちづくりに取り組んできましたが、今回の資料を読ませてもらって、ここに書かれているすべての仕事を、私は30年かけてやってきたと自信を持って言えるなど改めて確信しました。

一気にまちが変わる、ということはありませんので、みんなが同じ方向を向いて取り組んでいけば、徳島市はもっと魅力的なまちに変わるという自信があります。当たり前のことを続けているだけでも、徳島市がいいまちだと一人一人の市民に気付いていただいて、都会に

はない地方の良さをもっと見出して、わかりやすくみんなに伝えていけば、もっと具体的にわかりやすく、まちは変わっていくと思います。一言ではなかなか言い表せないですが、自分が経験したことを通じて、海外に出た際にも徳島市がどんなに素敵なまちか、ということを再認識しています。

(会長)

すごい活動を続けてくださっていますね。30年も。

(委員)

川掃除が基礎ですが、次々に新しいアイデアを思いつくので、様々な活動をしています。今はまち中を花でいっぱいになりたいという思いで花植えをしています。徳島市も協力してくれていますが、こういったまちづくりを身をもって体験しているので、わかりやすいですね。

(会長)

30年もの間活動ができた一番の要因というのは何でしょうか。

(委員)

自分に勝つことです。川掃除も、警報が出ていない限り雨が降っていても行きます。

(会長)

そういったポリシーでやってこられたということですね。ありがとうございました。次の委員さん、お願いします。

(委員)

私からは、具体的ではありませんが、方向性について3つほどご提案したいと思います。まず一つ目はデジタル化の対応について。先日、県は将来展望を下方修正しました。47都道府県、各市町村が持ちこたえられるかという厳しい状況にありますが、こうした中、社人研の推計で2040年の世帯構成をみると、徳島県は一般世帯の内49%が高齢者世帯で、そのうち39.9%が単身者世帯となっています。2040年の徳島は高齢単身者の社会がやっ

てくるということです。その時、地域の生活環境を支えるためには、Society5.0 等、デジタル化に真っ先に対応する必要があると思います。デジタル弱者はこれから情報弱者であり、医療弱者であり、福祉弱者であり、最終的には消費弱者となっていきます。この課題は地方都市の方が喫緊の課題となっていて、そのためには機器だけでなく、デジタル化に対応できる市役所内の人材を早急に育てなければいけないのではないのでしょうか。

2 つ目の提案は、雇用の問題についてです。人生 100 年時代になると、一般に思われる以上に学ぶ時間と働く時間が長くなります。よく多様な働き方と言われますが、テレワークやモバイルワーク、シニアワークといった多様な働き方が、環境やライフイベントに応じて自由に選択できる徳島市を作らなくてははいけません。特に労働力が不足してシニアワークに比重が置かれてくると、頑張る高齢者は病院に行かないので医療費も減ってくる。扶助費も減る、そういった面も含めて税金を納めるシニアを増やすというのも人生 100 年時代の働き方です。その働き方を支えるのが学び方ですので、マルチステージとよく言われますが、色々なスタイルを自分で組み立てながら、自由な選択肢の中で徳島市で働く場所を確保し、元気に最後まで働けるような労働環境を作っていくというのが重要ではないのでしょうか。

3 つ目は SDGs について、SDGs は 2030 年から逆算するバックキャストिंगの考え方なので、是非第 2 期総合戦略を文字化する際には、SDGs の 17 の目標のうちどの部分の達成に寄与する取組なのかを明確にし、アイコンを貼り付け、徳島市の戦略はこういった方向性を以て SDGs と合致している、とはっきり示されることが求められていると思われま

(会長)

シニアも働いた方がよいということで、シニアの単身世帯が多くなるということについて、私も他人ごとではなく、間もなく高齢者と呼ばれる年齢になって、実感をもたえて考えてしまいました。次の委員さん、お願いします。

(委員)

皆さんよくご存じのことだと思いますが、今の日本社会では「人口が増加するということは期待できない」ということを前提に議論をしていく必要があると思います。ベビーブームが起こることで人口の高水準を維持してきた面がありましたが、平成の初めごろに第 3 次ベビーブームが起こらなかったことで、人口の維持ができなくなりました。昨今の人口拡大政

策は本来、第3次ベビーブームが起きなかった30年前から取り組んでおくべき政策でしたが、国や自治体はそれをおろそかにしてきました。手遅れの感は否めません。

小さな自治体のレベルで人口を増やしていくことは可能かもしれませんが、一度減り始めた人口は総体的には減り続けていくので、自治体は人口を増やすことではなく、いかに人口の減り方を緩やかにして、「上手な減り方」へ誘導するかを考えるべきだと思います。現在の徳島市を維持していくための戦略的な人口減少策を検討していく必要があります。

そのなかで地域振興と結び付けて考える際、徳島県内の企業や教育機関を育て、そこで生みだされた利益が徳島県内で還流するようにしなければ、真の意味での地方創生・地域振興は実現されないでしょう。地域外からチェーン店等を誘致することは、長期的には徳島市から利益を流出させることになるので、必ずしも良い政策ではありません。

徳島市の人口転出入の状況を見ると、徳島市の教育に魅力を感じて若い人たちがやって来る一方で、高校・大学卒業後の持続的な教育の魅力が乏しいこと、また産業力が十全でないことが露骨に結果として表れているように思います。その点から、徳島市に求められているのは「教育で人を呼ぶ」、そして「産業で人を留まらせる」ということではないでしょうか。その意味で徳島市において大学が果たす役割は大きいと言えるでしょう。

徳島市の魅力に関しまして、『地域ブランド調査 2018』を見ますと、県外の方々が見た徳島の魅力度は全国46位、県内の人々から見た愛着度は全国30位となっています。確実に言えることは、県外に対しては徳島の魅力が伝わっていないだけでなく、県内の人々さえ徳島に愛着をさほど抱いていないということです。したがって、まずは県内でしっかり「魅力」を醸成し、県外にその魅力を発信すること、そして徳島の人たちに魅力を理解してもらうことの両方が必要です。県民の愛着をどう高めていけるかは、徳島市を維持するための基本的な部分として考えていく必要があると思います。

(会長)

確かに30年以上前から人口減少の警鐘は鳴らされていたが、放置されていました。

(委員)

そういった現実を受け止めたうえで政策を立案した方が現実的だと思います。

(会長)

確かに人口を増やすのは無理ではないかというのは、皆さん感じられていると思います。産業で人を留めるということでした。県外から入学している学生がいると思いますが、そのまま徳島で働いているケースもありますよね。

(委員)

県外から進学してくれた学生のなかには、徳島に残って活躍してくれている者もいます。地元から徳島に進学した時点で既に「外」の事情を知っているので、地元に戻るのではなく徳島などの県外で活躍したいという学生も一定数います。

逆に県内から入学した学生が、親世代から「県外に出た方がいい」と勧められているケースも少なからずあると聞きます。若者を徳島市に止まらせて流出を抑制する際には、若者(学生)を説得する以前に、親世代を説得する戦略を考えることも重要かと思います。

(会長)

ありがとうございました。次の委員さん、お願いします。

(委員)

今回参加して、徳島市がこういったことを目指しているということを初めて知りました。ということは徳島市の取組は一市民まで浸透していないだろうということをまず感じました。

次に感じたのは、基本目標などを見てもどの自治体にもあるようなもので、特徴が無いなということです。少し思うことは、「普通のまち」であることを特徴としてもいいのではないかと思います。まったりとした雰囲気は徳島の暮らしやすさであると思います。東京に出張することがありますが、満員電車で揺られて通勤する生活はあまりしたくないなと思います。そこをどうにか PR できれば。今は全てがグローバルに展開している中で、魅力発信がしやすい一方、埋没しがちでもあります。やはり特徴的なところを出さなければいけないので、そこは市長に徳島市の PR をしていただければと思います。

先ほど発言がありましたが、デジタル化の進行は非常に早く、デジタルファースト、デジタルガバメント構想が着実に進んでいる中で、行政側に詳しい人材が少なく、対応が追い付

いていない状況があります。徳島市が早くに取り組んで、マイナンバーカードを活用するなどの施策を打って、エストニアのように遠くても、家でいても手続きできるような形にできれば、徳島市が進んでいるなど前面に出していける特徴にできるのではと感じています。

徳島市でも医療費は問題になっていると思いますが、ジェネリックの利用率が非常に低く、医療費が高くなっています。長野が様々な取組をしていることで知られていますが、新潟も医療費が少ないようです。これらの都市を参考に何か医療費を抑制するような、地方でもできる知恵があるのではないのでしょうか。現在は田舎でもコミュニティで支えあうことが少なくなってきたので、介護に頼らざるを得なくなっているのではという話を聞いたことがあります。高齢単身世帯が増えるのであれば、コミュニティをもう一度復活させていく必要があるのではと最近思っています。

(会長)

最初におっしゃった徳島市の取組が市民に伝わっていないという話については、市長に就任して一番に感じたことでもあります。なかなか伝える方法が難しく、ホームページに載せておけば伝わるものでもないのに、毎月 2 回は全世界帯に広報誌を送付しているが、どれだけの人に見てもらえているのか。当然新聞もテレビも見る人、見ない人がいる中で、デジタル化に対応していければ随分伝わりやすくなると思いますが、悩ましい問題です。次の委員さん、お願いします。

(委員)

徳島市との協働による新たなまちづくり事業として子ども食堂を運営していますが、この夏休みには 1 日最大 60 人の子ども達が来店しました。運営にはボランティアの大学生 50 人が登録してくれて、交代で入ってくれています。学生は初めは単位取得が目的でしたが、活動の意義を理解してくれ、取得後も来てくれている人がいます。ボランティアの学生に、どんなまちなら住みたいかというアンケートを取ったので、紹介しますと、駅周辺やまちに活気があること、安全なまちであること、卒業後に働きたい職種があることなどが回答されていました。

高校生まで無料で食事を提供するクレエール子ども食堂を財政面で支えてくれているのがクラウドファンディングで資金を提供してくれた全国 103 名の寄附者の方々ですが、と

くしまの生産者の皆さんも規格外の野菜などを持ってきてくれています。子ども食堂の食事は障がいのある人が作っており、これからも事業を継続して、障がいのあるメンバーも自立して働ける場となり、一般企業にも就職できるスキルを身に着け、支援を受けるだけでなく自立して地域で働ける人になって納税者になるという場を目指しています。

徳島市の今までの取り組み目標や施策は素晴らしいと思いますが、どの自治体も似たような取組を行っています。そこで、「日本一子育てしやすいまち 徳島」と全国に PR できるような思い切った取組を行ってほしいです。子どもを 4 人産みたいといていた娘が、子育ての大変さから 3 人目を迷っている状態で、仕事に復帰したいが、社会から取り残されているような不安があると言っています。子育ての切れ目のない支援が無ければ社会復帰は難しいですが、そういった不安を取り除く取組ができているか、例えば出生届を出そうとしたとき、徳島市の HP にある「赤ちゃんが生まれたら」というページを見ても出生届について書かれていませんでした。届出というところにあると思いますが、少し不親切だと思います。また、実際の対応を見たわけではないですが、窓口対応についても、満面の笑顔でおめでとうございますと言ひ、徳島市が全力を挙げてサポートします、子どもが生まれて祝福しますというような雰囲気づくり、態勢を整えてほしいです。壁の掲示などで住民を歓迎するような表示ができているか、安心して子育てできる環境であることが大丈夫だと分かる情報提供がその時にされているか。出産祝い金等の手当での充実なども、高齢者に財源が偏ってしまっていると思いますが、クラウドファンディング等を活用しながら、子育てにお金が集まる仕組みができればいいと思います。

また、ふれあい健康館を子ども未来センターとして拡充する、子育てイベントを開催する、毎日子育て相談を受け付けるなどして、いじめや虐待、不登校、自殺などの問題が 0 にできるように、徳島が子どもと向き合い、子どもをとことん大切にすまちなちであることを打ち出していきたいと思っています。

徳島に来る人を増やすことについては、阿波おどりを中心にして、観光客や転入者を増やしてほしいと思います。日本最大のダンスイベントを 7/15~8/15 の 1 か月程開催してみるのはどうでしょうか。民泊などを活用し、宿泊者を増やすとともに、食事券のプレゼント等を行うなどすれば、市民のおもてなしの意識を向上させ、移住者を増やせるよう努力してはどうでしょうか。

魅力的なまちづくりについては、水辺の美しい徳島市なので、もっと水辺を活性化させ、

人が集まって楽しく過ごせる魅力的なまちづくりを推進してもらいたいし、発信してもらいたいと思います。働く場の創出もちろんですが、大学生がせつかく毎年何千人と徳島市に来ているので、その人たちが就職して大学卒業後もいてもらえるような魅力的なまちにしてもらいたい。県外に就職した人も帰ってきたいと思えるまちづくりを進めてもらいたい。そして帰ってこられる雇用の場があるようにしてもらいたいです。

(会長)

ゼロから子ども食堂を始められて、素晴らしいと思います。ボランティアの学生も50人も来ているんですね。

受付の雰囲気等はおっしゃるように大切ですね。最近は市役所も良い対応ですと言ってもらえるようになりました。ただその心構えを持つというのは大事だと改めて思いました。

良ければ子育て支援で何か足りないものなど具体的にあればいただければ。

(委員)

おかげさまで子ども食堂については、大学から学生さんに一番おすすめのボランティア先として学生ポータルサイトや教授から紹介されています。子育て支援関連については、あまり詳しいわけではないので、どんなことをしているか説明をお願いしたく、情報発信もしっかりしてもらいたいです。

(会長)

非常に難しく、市長になってから医療費補助を小学生までから中学生までに変えたが、小さな自治体では高校までというのが普通になってきている。中学校まで広げるのも苦労したが、高校までとなると財政的に厳しい。他の自治体ができるが徳島市がなぜできないのかと言われるのがつらいところです。給食費が無料にできないかとも考えてみましたが、多くの財源が必要となり、できませんでした。そういった財政の壁と当たりながら取り組んでいます。また重要なことで、まだできていないことがあれば教えてもらいたいと思います。次の委員さん、お願いします。

(委員)

1 6年前から商店街の空き店舗を利用して子育て支援施設を運営しています。県内初の乳幼児をメインとした子育て支援施設であり、妊婦の方や生後 1 か月程度から来ても安心できる施設ということで、市外からも利用者が来ています。転勤で来られた人などで、徳島市は子育てしやすい恵まれているまちであると言ってくれる人も多いです。保健師や助産師の方が案内してくれており、里帰り出産した人や転勤間もない方からも利用されています。利用者には各市町村に子育て支援を行っている場所があることを伝え、親御さんが次のアクションを起こせるよう背中を押せるような支援と考えて活動しています。

徳島市は子育て支援についてすごく恵まれていて、ガイドブックやホームページでの情報発信があり、色々な受け皿があるので子育てしやすいという人もいますが、窓口で笑顔でおめでとうございませんと迎えてくれるなど、細かな対応も大事です。

来年度までに子育て世代包括支援センターが設置されるということですが、子育ては切れ目がない支援というのが非常に重要で、徳島市の場合も保育コンシェルジュがいますが、その人たちがどういったことをしているのか、細やかな相談に乗ってくれる人がいるのだということが市民に知られていないように思います。ただ、コンシェルジュだけでなく、あらゆる子育て支援施設が連携する中で、情報発信がなされ、切れ目のない支援がもらえ、さらに頑張っている親御さんを迎えられる体制ができているか。今も充実していると思いますが、よりきめ細やかに、かつ事務的に情報を伝えるのではなく、妊娠したことを市役所の職員も含め、みんながこんなに喜んでくれるのかと思える受け入れをしてもらいたい。そうすれば子育ても頑張れるので、徳島市で生んでよかったと思われるまちであってほしい。私たちもその思いで活動を行っています。

また待機児童の問題について、保育所の数や定員を増やして入所できるようにすることはもちろん大事なのですが、親は安全な保育所でなければ預けたくありません。保育の質を確保してほしいと思います。私立でシニア世代の保育補助を活用しているところがありますが、公立の保育所では保育士の資格を持っていないと働けない条件があるために実施していません。県が取り組んでいるアクティブシニアの子育て支援コースを受講された方たちを保育補助という形で雇用するなど、シニア世代など経験のある人を活用する方法を思い切って考えてほしいと思います。

最後に、商店街がますますさびれてきています。東新町の商店街も半分以上が閉店してい

る状態です。

商店街も昔は行政頼りな部分もありましたが、現在は自分たちでどうにかしようと変わってきていますが、それでも厳しい状況で、強く不安を感じています。阿波おどりの時には10時-16時の営業時間を17時-21時半に変え、夜中までスタッフが帰れない状況で頑張っています。商店街をどうにかしてほしいというではありませんが、頑張っていることは知っていてほしいと思います。

(会長)

私が思っている以上に商店街は厳しい状況ですか。

(委員)

かなり厳しい状況です。日曜日には大半の店舗が閉まっています。様々なイベントを実施して盛り上げようとしていますが、駅前なども同じような状況のようです。

(会長)

eスポーツのイベントなどあったと思いますが、どうでしたか。

(委員)

イベント時はにぎわっていました。小さな子どもを連れてトイレができる休憩施設として喜ばれました。最近は商店街に体操教室などが入って今までとは違った利用者もいますが、商店街の高齢化が進んでおり、頑張るにも少々厳しくなってきました。

また、付け加えると、徳島市の子育て支援は直営が多く、民間で子育て支援をしたいと思っている人はたくさんいますが、活動できる場所があまりありません。さらに、生まれてすぐの子どもを連れていける場所が少なく、ふれあい健康館の中に赤ちゃんスペースを作してほしいと10年ほど前からいっていますが、予算などの問題で難しいようです。

(会長)

ありがとうございました。次の委員さん、お願いします。

(委員)

私の体感ですが、県外から徳島の大学に来た人は地元に戻るか都会に行ってしまう人が多く、ずっと徳島に住んでいる人は徳島で就職する人が多いように思います。

自分の周囲では、希望する業種の就職先が徳島市には乏しく、東京へ行ってしまっている一方で、徳島で就職する人に関しては、銀行や公務員のような生涯働ける職業を目指している人が多いように感じます。

就職したい職種が都会に比べて少ないというのは仕方ない部分もありますが、徳島の人はい比較的郷土愛のある人も多くいるので、もう少し基盤を整えたり、徳島の強みを出すといった面で産業振興を進めれば、徳島で就職する人も増えてくるのではないのでしょうか。

(会長)

やはり産業振興は重要ですね。次の委員さん、お願いします。

(委員)

主婦の目線、母親の目線で話したいと思います。徳島市は自然が豊かで、市内でサーフィンができ、登山ができ、飲食店が集積し、食べ物もおいしく困ることがありません。徳島市は私にとって非常に魅力的ですが、その魅力が伝わっていないということが一番の問題であると思います。

子育てや医療についても今のところ困ったことはありません。強いて言えば教育に関する選択肢が少ないように思います。受験先や中学校など、もう少し選択肢があればと思います。

発達障害の支援についてはもう少し頑張ってもらいたいと思っています。子どもが読み書き障害を持っていて、普通の授業になかなかついていけなかったため、各学年の担任の先生に相談を続け、4年生の時にやっと検査を受けられましたが、半年近くかかりました。通級指導教室に通えることになりましたが、今度は読み書き障害のクラスがある学校に限られていて、別の学校に通えるなら紹介してもらえるとのことでした。どこの学校になるかわからないうえ、申し込んだら断れず、週1回、始業の3時50分にそこへ送り迎えができなければ断ってくださいと言われました。働く人にとってこの条件は難しいと思います。幸い近所の学校に通えることになりましたが、多くの子どもが通っていると思っていたら、1人だけのクラスでした。同じ障害で困っている子どもはもっといると思うので、支援を受けられていない

状況にあるのではと感じました。学校によって受けられる支援が違うので、条件を知らないまま入学してしまう状態になっています。

(会長)

色んな観点から建設的なご意見ご指摘をいただき、誠にありがとうございます。私たちもしなければいけないことがたくさんあることを再認識しました。事務局から何かありませんか。

(事務局)

本日欠席している委員からの意見をご紹介します。

労働の観点から、徳島は、「くるみん」の取得率向上を図っていたり、阿波おどりをしながら働いている方が多くいらっしゃる、働きやすいまちであることをアピールしてはどうかという意見、また SDGs について、第2期総合戦略の策定にあたっては、その視点を絡ませることが必要であること、さらには一般の方に分かりやすいよう、「見える化」を図るため、SDGs を推進する室をつくるなどにより、施策を推進してはどうかという意見を頂戴しています。

(会長)

委員の皆さまから頂いたご意見、ご指摘を十分に参考にさせていただいて、第二期総合戦略をしっかりと組み立ててまいりたいと思います。頑張っていきますので、また色んなご指摘を頂けたらと思います。本日は長時間にわたりありがとうございました。

5 閉会

(事務局)

【今後のスケジュール等事務連絡】

終了